

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	総合演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	高木 靖彦	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
この1年間に、ChatGPTをはじめとした、生成AIと呼ばれる、学習したデータを基にテキストや画像などのコンテンツを生成するAI（人工知能）が急速に実用化されてきました。その高い有用性のために、あたかも万能であるかの誤解や、「AIは神か悪魔か」といった極端な議論も生じています。しかし、学習していない情報には対応できないといった幾つもの限界があります。また、著作権や倫理面などで様々な問題点を抱えています。この演習では、実際に生成AIを使ってみながら、それらの問題点について考えていきたいと思います。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	各自が生成AIに対して質問をして、その回答を評価するという実践的な方法で理解を深めていく演習とする。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	はじめに	この演習の目標、方針などの説明。自己紹介。	☐
第2回	コンピュータとAI	コンピュータの動作原理、特にソフトウェアの基本原理・原則とAI（人工知能）の基礎を学習し、次回以降の学習に備える。	☐
第3回	生成AIの基礎	AI（人工知能）のなかでも「生成AI」と呼ばれるものの基本的な事柄を学習し、次回以降の学習に備える。	☐
第4回	ChatGPTを使う準備	アカウントが作成されていない場合はアカウントを作成するなどOpenAI社の生成AIであるChatGPTを使えるようにする。	☐
第5回	BeingChatを使う準備	Microsoft社の生成AIであるBeingChatを使って問題解決をできるように準備する。	☐
第6回	生成AIに大学の課題を質問する（1）	ある科目の課題をBeingChatに質問してみて、回答が適切であるかを検討する。	☐
第7回	生成AIに大学の課題を質問する（2）	ある科目の課題をChatGPTに質問してみて、回答が適切であるかを検討する。	☐
第8回	生成AIに大学の課題を質問する（3）	前2週の実習の結果から大学科目の課題の答えを生成AIの助けを借りて作ろうとする時の問題点を考える。	☐
第9回	生成AIに国際問題を質問する（1）	最近の国際問題をBeingChatに質問してみて、回答が適切であるかを検討する。	☐
第10回	生成AIに国際問題を質問する（2）	最近の国際問題をChatGPTに質問してみて、回答が適切であるかを検討する。	☐
第11回	生成AIに国際問題を質問する（3）	前2週の実習の結果から最近の国際問題に関するレポート等を生成AIの助けを借りて作ろうとする時の問題点を考える。	☐
第12回	生成AIに時事問題を質問する（1）	ごく最近の時事問題をBeingChatに質問してみて、回答が適切であるかを検討する。	☐
第13回	生成AIに時事問題を質問する（2）	ごく最近の時事問題をChatGPTに質問してみて、回答が適切であるかを検討する。	☐
第14回	生成AIに時事問題を質問する（3）	前2週の実習の結果から時事問題に関するレポート等を生成AIの助けを借りて作ろうとする時の問題点を考える。	☐
第15回	まとめ	この演習で生成AIに幾つかの質問をして得られた答えを評価し、この演習での学習成果をまとめる。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

講義時間内に扱った問題の表現を変えて生成AIに質問してみて、どのような回答が得られるかをためしてみる。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出されたレポート等は、添削・採点の上で返却します。時間内に発表を行った場合は、相互に評価して改善していく過程をとります。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	コンピュータとソフトウェアの基本を理解して、コンピュータを使えているか。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	次々と現れてくる新たな技術やサービスには、常に負の側面があることを考えられるようになったか。また、いかに優れた最新技術にも限界があることを理解しながら使っていくことができるようになったか。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	生成AIに対する質問の表現を様々に変えながら、最適な回答を得られるよう工夫することができているか。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

原則として毎回課題を課し、それを評価する。その中には、講義時間内での発言、グループ作業への貢献なども含まれる。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	使わない	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	使わない	
2		
3		
4		
5		